

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
1	H31.2	魅力	新庄委員・中井委員・岩本委員・佐野委員・中村委員・山口委員・村富委員	地域活動協議会のPR	・地域活動協議会の制度や活動について知らない人が多いので、情報発信を確実にし認知の向上に努めてほしい。例えば、地活協の活動取材したものを動画で流したり、転入者バックで情報発信したりして地域をフォローはどうか。 ・地活協の活動として何をしたらいいかわからないので、他地域の地活協の様子がわかるよう情報発信できるようなものがあればいい。	ご指摘の通り情報発信が重要であり、「地域活動協議会って何」ということから、地活協の様々な活動実績を共有していくということまで、積極的に情報発信してまいりたい。	②	1-1-1 5-2-1
2	H31.2	魅力	新庄委員・中井委員・岩本委員・佐野委員・中村委員・山口委員・村富委員	地域別保健福祉計画	今年度、地域別保健福祉計画策定に向けて新たに意見交換したのは1地域にとどまっているが、アウトカムで2020年度末までに全17地域が議論していると設定するのはやや無謀ではないか。この1年でどういう取組をしてその結果1地域になったのかを把握し、具体のプロセスを踏まえて現実的な目標を設定した方がよいのではないかと。その1地域における保健福祉計画の実績について内容を分析の上、地活協同士の連携により成功事例を共有し他の地域が取り入れていけたらいい。	広報紙3月号にて、既に地域版保健福祉計画を策定し、取り組みを進めている地域にスポットをあて、特集している。今後、この記事を見ていただいた他地域の方の機運の醸成に繋げていけたらと考えている。また、アウトカムについては、区版の地域保健福祉計画の更新時と併せた目標設定であったが、現状の状況を鑑み、目標値を修正していく。	②	1-1-3
3	H31.2	魅力	新庄委員・中井委員・岩本委員・佐野委員・中村委員・山口委員・村富委員	区民まつり	今年度も雨天のため開催されなかったが、準備段階でたくさん課題があり反省点がたくさんあった。雨でも開催できる場所がいいのでは。	雨天時の代替案については、これまでパレード形式で行ってきたことから検討してこなかった。実行委員会の中で雨天時でも開催できるような案を検討していきたい。	②	1-2-1
4	H31.2	教育・子育て	友實委員・角田委員・田原委員・長野委員・西田(真)委員・和久委員・大谷委員・村富委員	登校・登園サポート事業	・目標達成に至らず一旦見直しとあるが、大事な取組である。なるべく早く再開し継続することで、数年後の結果に表れてくる。子どもの登校に消極的な親にコミュニケーションをとってサポートしていくべきであり、場合によってはボランティアではなく、専門的な人からの支援も必要である。また、専門家やボランティアと一緒に勉強できる場があればよい。 ・友達同士が不登校の子を誘う方が効果的では。	・来年度は予算がない中、区役所職員が緊急の対応をしながら様子を見ていく。現在、大阪市内の7区で「こどもサポートネット」を先行実施しており、その事業経過を踏まえて2020年度以降の施策に生かしていくので、その結果も加味しながら検討してまいりたい。 ・息の長いスパンで効果をとらえていかないとけない。限られた財源で最大の効果を得られるよう地域と一緒に進めていきたい。	②	2-1-1
5	H31.2	教育・子育て	角田委員・長野委員・西田(真)委員・村富委員	中学生勉強会	とてもいい事業であるが、需要に反して枠が少ないのでは。また、学力向上に対応するなら小学校高学年くらいからサポートが求められるので対象を拡大できればよい。	経済的に困難な世帯における、学習意欲や自尊心の低い子どもへの支援は今後も必要であると考えており、居場所を兼ね備えた学習支援への対応は、2020年度に向けて引き続き検討していきたい。	③	2-2-1
6	H31.2	教育・子育て	友實委員・角田委員・田原委員・長野委員・西田(真)委員・和久委員・大谷委員・村富委員	こんにちは赤ちゃん訪問事業	産後のお母さんにとって心強い施策であるが、1回訪問したら終わりなので、その後につながるきっかけがあればよいのでは。	・本市では、31年度より、すべての子育て家族にとって安心して気軽に相談できる場をめざして「大阪市版ネウボラ」(注)を実施するとしている。 「こんにちは赤ちゃん訪問」自体はご指摘のとおり1回だけの訪問であるが、「妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援」を充実させる中で、そこにつながる一貫した取組となるよう、保健師、子育て支援室等、区役所内で連携してまいりたい。 (注)「ネウボラ」とは、フィンランド語で「アドバイスする場所」という意味で、切れ目のない支援をワンストップで行う制度とそのための地域拠点そのものも指す。	②	2-1-1

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
7	H31.2	健康・福祉		複合課題世帯・生活困窮者の自立支援	<ul style="list-style-type: none"> 支援を拒否する事例に対してどう対応していくか、取組が必要である。 運営方針3-1-1について、今年度の指標は意識の高い人へのアンケート結果であるので、要支援者対策の結果となっているか疑問。また、意識の高い人へのアンケートとして86%という結果はむしろ低く感じる。 要支援者本人がどれだけ自立できたか、が重要である。 支援が必要な人が声を上げたとき、上手く拾いつながってくれる人が大事であり、そういったつなげる人の育成が必要である。 	区役所の相談支援体制を強化すること、啓発物を活用した相談窓口の認知度向上により支援を求める声を拾いつながってくれる人を増やすこと、区役所・支援機関・地域住民の関係性をより実効的なものに深化していくことなどにより、東淀川区総体としての相談支援力を向上させる。 そのうえで、困難な事例であっても、つながる場を活用するなど支援者が孤立せずにチームとなって伴走型支援を行い、ひとりでも多くの要支援者本人の自立が実現することをめざして取り組んでいく。	①	3-1-1 3-1-2
8	H31.2	健康・福祉		要援護者の見守り活動等への支援	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動に意欲がある人に情報が入ってこない。どうやって情報を伝えるか。隠れている要援護者を見つけて、行政につなげる仕組みや仕掛けが必要である。 民生委員への情報提供は有益であり、そこから地域に広がればよい。 	地域の意見を聴きながら実情に応じた重層的な見守り活動の支援、仕掛けを検討していく。	②	3-1-3
9	H31.2	健康・福祉		子どもの貧困(貧困の連鎖)	<ul style="list-style-type: none"> 区役所の積極的な取組が欲しい。物を与えるという施策もあるが、子ども自身が貧困の連鎖から抜け出すことが出来るシステム作りが重要である。 親が拒否すると支援が進まない、子ども自身の申請で支援ができるようになったらいい。行政に繋がる仕組みや仕掛けが必要である。食育講座をこども食堂とタイアップしても面白い。 	運営方針2-2-1に記載している中学生勉強会事業では個別の学習支援を通じて子どもの自尊感情を高める取組を委託実施しているところである。	①	3-1-2 (2-1・2-2)
10	H31.2	健康・福祉		健康づくり	健康づくりに意識して取り組んでいる区民の割合(3-2のアウトカム指標)が低かったことを踏まえて、次年度以降の取組みとして、区民への意識啓発の具体的な方法・行動などを示してほしい。	区民への意識啓発のために、より充実した情報発信を行っていくこととし、区HPの内容充実や地域での活動のなかで啓発活動を積極的に行っていく等の取り組みを進めていく。	②	3-2
11	H31.2	健康・福祉		百歳体操の広がり	<ul style="list-style-type: none"> 百歳体操が世代間交流の場として地域でつながりができ、タイムリーな情報(例えばヒートショックや消費者被害)を共有できる場にもなるので、まちぐるみの取組の輪が広がればよい。 行政に繋がるような仕掛けづくりが必要である。 世代交代の時期を迎えているが、ネーミングの問題もあり、若い人が参加してくれない。30~40代も取り込めるような幅を広げるアイデアが必要である。一方で、若い世代はカーブスなどに積極的に健康づくりに取り組んでいるので、健康づくりという観点からは一定達成している。 	子どもと高齢者のつながる場として、新しいいきいき百歳体操を包括等の協力を得て、学校の講堂で実施する等を計画しており、地域で世代間のつながりができるよう取り組んでいく。また、新たな百歳体操としてネーミングを広く公募し若い人への対応を図っていく。	②	3-2-1

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
12	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	防災についての 取組・アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は具体的取組を実施して目標を達成できているが、課題も多く、取組を継続して実施することが重要である。 ・4-1-2の指標に「災害時取るべき行動が分かった」区民の割合とあるが、取るべき行動の分野によって、分かったという数値が減少したりする。 ・アンケート結果を地域別・年齢別に分析し、地域へ情報を公開して対策を練ることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業効果検証を行いながら、効果的な内容で取組を継続して実施する。 ・今後、地域の訓練を継続していく中で、災害時の具体的な行動について整理し、指標への反映も検討していく。 ・アンケート結果について属性等を分析し、その結果を地域と共有しながら、地域事情に応じた今後の対策を進めていく。 	②	4-1
13	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	備蓄	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の備蓄は1か所だけでは区内にいきわたらないと思う。小規模の病院や企業を巻き込んでどうか。 ・自助の備蓄は大事であるが、限界がある。例えば、ミルクやおむつなどは、協定を締結している協力事業者や幼稚園・保育園で備蓄してもらおう等連携を進め、その内容を公開してほしい。 ・広報紙の1面等を使い、毎月、防災の取組(例えば備蓄のローリングストック法等)のテーマを決めて、具体的な内容を絞り込んで防災知識の啓発をしてはどうか。 ・在宅避難者など、避難所以外の避難者への物資の支給など、課題の整理が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の備蓄については、大阪市と府薬剤師会・府医薬品卸協同組合で協定書を締結し、災害発生時の安定供給に備えている。迅速に対応できるよう、医療機関と連携して東淀川区独自で引き続き拠点の設置に努める。 ・大阪市の備蓄については、大阪府域救援物資対策協議会で定められた、食糧、毛布など11品目について、南海トラフ巨大地震の想定避難所生活者数53万人に対応した備蓄に取り組んでいる。また、近隣都市等と物資を融通し合う相互応援協定のほか、民間事業者等が製造・販売する物資を避難所等に届けていただく協定等の締結を推進しており、HPで公開している。引き続き、協力事業者の拡大に努める。 ・ご意見を参考に、毎月、広報紙を活用して防災啓発を実施する。 ・避難者は避難所の外にも存在することを踏まえ、避難所が対応拠点として機能するよう、起こりうる事態を想定し、課題を整理する。 	②	4-1-1 4-1-3
14	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	出前講座	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座について来年度34回実施予定とあるが、小中学校数に比べるとまだ少ないのではないかと。学校からの発信は効果的で、子どもが親に伝えることで親の意識も変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における子どもたちへの防災・減災教育を通じた親の防災意識の向上は重要であり、引き続き学校とも連携を図り取り組みを進める。 ・31年度取組計画において、地域住民や学校の防災・減災の出前講座を50回以上に修正する。 	②	4-1-1
15	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	要配慮者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者に対する学習会を充実させたほうがいい。 ・地域における要配慮者の支援が、いざという時に機能するように、区役所に関わってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪北部地震の教訓から、避難行動要支援者に対する安否確認の手順などについて、大阪市全体で課題認識しており、収集した他都市や事例や手順をもとに、地域防災計画などに反映する。また、その内容を学習会で周知し、地域の実情に応じた支援行動が行われるよう取り組みを進める。 	②	4-1-2

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
16	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	地域の避難訓練 ・勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・先日の地域の訓練で、従来の型にはまった訓練ではなく、まだまだ不十分な点も多いが現実味を帯びた実践的な訓練をして有益であった。 ・災害時に地域内ですぐに情報伝達できるような状況づくりを地域に対して促進し、情報伝達に関する訓練を各地域で強化してほしい。 ・地域の勉強会に毎回同じ人が参加しているので、告知方法に工夫が必要である。 ・他の地域と合同防災訓練を行う等、地域連携を深める取組を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の訓練事例を相互に共有できるような場の設定を行い、地域が主体的に実践的な防災訓練を実施できるよう支援する。 ・災害時のICT利活用も想定した情報伝達について、地域との調整・訓練を実施する。 ・地域の防災訓練や学習会の実施について、地域内での周知に加え、区役所においても、区広報媒体を活用して積極的に発信に努める。 ・中学校下も見据えた地域間で連携した防災訓練が実施できるよう支援する。 	②	4-1-2
17	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	犯罪情報の広報	<ul style="list-style-type: none"> ・特に注意を要する犯罪が多発したときは、SNS等で注意喚起の情報発信を強化してほしい。 ・柔軟な情報伝達方法を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急性や継続性を考慮して、SNSや広報紙はもとより、防災スピーカーや青パトなど様々なツールで情報発信を実施していく。 	①	4-2
18	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	青色防犯 パトロール活動	地域青パトの巡回が不十分であるため、地域間で連携しながら乗る回数を増やし、防犯意識を高めていけばよい。	平成30年度に地域青色防犯パトロール地域間相互乗り入れを5地域で施行実施した。31年度も継続しながら効果検証を行い、地域で効果的な活動が促進できるよう支援する。	①	4-2-1
19	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	重点犯罪の抑止	4-2-2のプロセス指標について子どもを狙った犯罪件数も大事であるが、一方で高齢者には限らない特殊詐欺も増えているので特殊詐欺件数も指標にしてはどうか。	ご意見を踏まえ、特殊詐欺の認知件数を指標に追加する。	②	4-2-2
20	H31.2	安全・ 安心	村富委員・堤下委員・ 熊谷委員・塩見委員・ 高田委員・水川委員・ 山下委員・和田(浩) 委員・和田(正)委員	交通マナー向上	大人の自転車マナーが悪いので、学校、PTAなどいろんなところで勉強会をもっとするべきでは。	地域や学校、PTA等が主体となり、区民の交通安全、自転車利用のルール・マナー向上を目的とした安全教室を実施するための支援を行う。	②	4-3-1